## 1 ショウマ

## 2 生薬の性状の項の次に次を加える.

- 3 確認試験 本品の粉末1 gに希塩酸 5 mL及びジエチルエーテ
- 4 ル5 mLを加え、10分間振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液を
- 5 試料溶液とする. 別に薄層クロマトグラフィー用(E)ーイソフ
- 6 ェルラ酸・(E)ーフェルラ酸混合試液を標準溶液とする. これ
- 7 らの液につき、薄層クロマトグラフィー〈2.03〉により試験を
- 8 行う. 試料溶液 $10~\mu L$ 及び標準溶液 $2~\mu L$ を薄層クロマトグラフ
- 9 ィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする.次
- 10 に酢酸エチル/ヘキサン/酢酸(100)混液(30:10:1)を展開溶
- 11 媒として約7 cm展開した後,薄層板を風乾する. これに紫外
- 12 線(主波長365 nm)を照射するとき, 試料溶液から得た数個の
- 13 スポットのうち1個のスポットは、標準溶液から得た青色の蛍
- 14 光を発するスポットと色調及びRf値が等しい.
- 15

## 16 9. 41 試薬・試液の項に次を追加する.

- 17 (**E**) イソフェルラ酸 C<sub>10</sub>H<sub>10</sub>O<sub>4</sub> 白色~淡黄色の結晶又は
- 18 結晶性の粉末である. メタノール又はエタノール(99.5)にや
- 19 や溶けにくく、水にほとんど溶けない. 融点:約230 ℃(分
- 20 解).
- 21 確認試験 本品のメタノール溶液(1→200000)につき,紫外
- 22 可視吸光度測定法〈2.24〉により吸収スペクトルを測定する
- 23 とき、波長 $215\sim219$  nm、 $238\sim242$  nm、 $290\sim294$  nm及
- 724 び $319\sim323\,\mathrm{nm}$ に吸収の極大を示す.
- 25 純度試験 類縁物質 本品1 mgをメタノール1 mLに溶かし
- 26 た液2 µLにつき, 「補中益気湯エキス」の確認試験(11)を準
- 27 用し、試験を行うとき、 $R_{
  m f}$ 値約0.6の主スポット以外のスポ
- 28 ットを認めない.
- 29 (E) ーイソフェルラ酸・(E) ーフェルラ酸混合試液, 薄層クロ
- 30 マトグラフィー用 (E)ーイソフェルラ酸1 mg及び(E)ーフ
- 31 ェルラ酸1 mgをメタノール2 mLに溶かす.